

令和 7 年 度 農作物病虫害発生予察情報	特殊報 第 1 号	令和 7 年12月 3 日 秋田県病虫害防除所
--------------------------	-----------	----------------------------

クモヘリカメムシの発生について

1. 病虫害名：クモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis* Dallas

2. 特殊報の内容：水田畦畔及び休耕田における初確認

3. 発生の経過

令和 7 年10月下旬に、にかほ市と由利本荘市の水田畦畔及び休耕田で行ったすくい取り調査（26 地点）において、エノコログサなどのイネ科雑草が繁茂していた 5 地点で採取したカメムシ類の成虫を、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、クモヘリカメムシであることが確認された。

本種は、東北地方では福島県や宮城県、岩手県で確認されているが、本県では、これまでの発生予察調査では確認されていなかった。

4. 形態・生態と被害の特徴

- （1）成虫（図－1）の体長は15～17mmで、体色は黄緑色を呈し、頭部と前胸背前縁部の両側に黒い縦帯がある。
- （2）幼虫の体色は緑色で、生育するにつれて黄緑色になる。
- （3）本県での発生生態は不明である。
- （4）厳寒期である 2 月上旬の最高気温が4.7℃を超える地域では、成虫の越冬が可能であるとされている。スギなどの常緑針葉樹林内で越冬すると考えられており、越冬場所からイネ科植物（ノビエ、メヒシバ、エノコログサなど）に飛来するとされる。
- （5）稲の出穂期頃になると、水田周辺にあるイネ科雑草や牧草から、成虫が水田内に侵入し、登熟初期から後期まで、成虫及び幼虫がイネの穂を吸汁加害する。登熟初期に加害されると、しいなや屑米が多くなり、多発すると減収をもたらす。

5. 寄主範囲

イネ科植物（イネ、ノビエ、メヒシバ、エノコログサなど）

6. 防除対策

- （1）ほ場内をよく見回り、クモヘリカメムシが発生していないか確認する。特に、翌年の 7 月以降の発生状況に注意する。
- （2）本種を対象とした防除対策は未確立であるため、当面は本県の主要な加害種であるアカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメを対象とした防除を行う。
- （3）耕種的防除として、増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。農道・畦畔の草刈りは、6 月上旬から稲が出穂する15～10日前までに数回行う。8 月には出穂期10日後頃に行う茎葉散布剤の散布 7 日後までに草刈りを行う。法面、休耕田などの雑草地の草刈りは、6 月上旬から稲が出穂する15～10日前までにできるだけ地域で一斉に行う。

7. その他

(1) 発生が疑われた場合は、病虫害防除所（TEL:018-881-3660）に連絡する。

8. 資料



図ー1 クモヘリカメムシの成虫

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	